

「民主主義の結果は絶妙」

選挙、大勢が判明しました。大きく言うと、国民は現状維持を選んだという事だと思います。私は以前書きましたように、みんなが同一の一票なのは悪平等だと思っています。一生懸命考えた人と、勧められたからとか、なんか美人（男前）だからとかで入れた一票が同じ価値というのがどうも納得いきません（ですから、年齢、納入税金額、過去の投票実績の3つで格差をつけるべきだと批判覚悟で書きました）。にもかかわらず、今回の選挙結果は、絶妙な感じだと個人的には思います。野党がキャンキャン言っていた森友加計問題はあったものの、国民としては一貫した安定政権を支持し、何をやるかはつきりしない傲慢な小池新党や、ちょっと極端な共産党よりも、なんか排除されて可哀想だし自民党のチェックとして立憲民主党の議席をちょっと増やしておこうか、という感じでしょうか。絶妙ですね。批判覚悟で言うと、新聞等の各候補の政策をチェックして、熟考して投票した人ばかりではないと思うのですが、なぜ、こんなに絶妙な結果になるのでしょうか？

勿論、今回の結果が妥当か否かは、人により受け取り方が異なると思います。私がやはり自民党员なので、自民党が負けなくてよかったと考えるためだとも思うのですが、その他の要因として、今回の投票率もあると思います。今回、投票率は50%をちょっと超えた感じでしょうか。つまり、半分弱の無関心な人（あるいは政治をあきらめている人、意図的に投票しなかった人）の意志はあまり反映されなかった、つまり、比較的政治的な意識の高い人達の意志が反映されているというのがあるのでしょうか。民主党旋風が吹いたときは、投票率は69%でした。この時は国民の熱気（普段選挙に行かない人も行ったのかな？）で政治が大きく変わりましたが、失礼ながら私的に総括すると、民主党政権は国内的にはスローガン優先で現実的な政治を行えず、停滞と混乱を招き、国際的には毅然とした態度をとらず国益を損した結果となったと私は思います。だとすると、投票率が低すぎても組織票優位になりますが、高すぎると人気投票的になるので、50%位が意外とちょうどいい投票率というのは暴論でしょうか。今回、希望の党は、小池さんの傲慢さが徐々に目につきだし、これら20%位の人達を失望させ、結果的に投票所に行かせることができなかった。それが以前の民主党旋風と異なっていた、という事でしょうか。

ともあれ、選挙が終わりました。候補者は、自分の人格を含め、世間にさらされ、勝負をかけたわけですから、今回立候補しチャレンジした人達は、このように評論だけしている私よりも少なくとも政治的には立派だと思います。お疲れ様でした。当選者の方達は、今後は、とにかく「平等なスタート、公平な競争、セーフティーネット」の観点から、私欲にとらわれず、国益を考え、合理的で寛容な日本を命がけで作っていかれる事を、私ごときが言うのも失礼だとは思いますが、一国民として願っています。